

Tokachi



KACHIMAI

いつも地域とともに。

十勝毎日新聞社

TOKACHI MAINICHI NEWSPAPER, INC

【北海道・十勝】

「十勝」という地名は、地域の中央を流れる十勝川をさすアイヌ語「トカプチ」が由来と言われています。十勝は、北海道唯一の民間による開拓の地です。先人たちは自らの力で未来の可能性を手に入れました。農業を基幹産業とする地域で、酪農・畜産が主体で、小麦、ジャガイモ、ビート、豆等の畑作も盛んです。

- 面積 / 10,831.62km²
- 人口 / 328,861人 (2023年住民基本台帳)
- 世帯 / 171,401世帯 (2023年住民基本台帳)



株式会社 十勝毎日新聞社

〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2番地

TEL 0155-22-2121(代表)

FAX 0155-25-2700

—www.tokachi.co.jp—

勝毎電子版 kachimai.jp

いつも地域とともに。

十勝毎日新聞社は1919年に創刊。メディアと観光を基軸としてさまざまな事業を展開し、地域の活力向上に取り組んで参りました。

「かちまい」の愛称で親しまれる新聞の最大の特徴は、豊富な地域情報と、住民の顔が見える紙面です。生活に必要な情報を届け、記事をきっかけに、地域交流が活性化。結果として、十勝がより豊かな地域になる。これが創刊以来、徹底している地域密着報道の目指す姿です。

観光グループでは、ホテル、菓子店、ガーデンの運営を通じて、十勝ブランドを発信。新たな価値を掘り起こし、地域の魅力向上に貢献します。

いつも地域とともに。

豊かで力強い十勝の支えとなれるよう、時代の流れを読み、果敢に挑戦を続けること。これが十勝毎日新聞社の姿勢です。

十勝毎日新聞社グループ

■メディアグループ

- 十勝毎日新聞社
- かちまい印刷
- かちまいサービス
- 帯広シティーケーブル(OCTV)
- エフエムおびひろ(JAGA)

■観光グループ

- 北海道ホテル
- 十勝川温泉 第一ホテル／豊洲亭・豆陽亭
- 十勝川温泉 三余庵
- 十勝千年の森
- キサラファーム
- 十勝トテッポ工房

目次

十勝毎日新聞社の姿勢	02
社長挨拶	04
複合メディアで十勝を活性化	06
地域密着の情報発信	08
電子版で早く深く、情報を	14
多彩なイベントで十勝を豊かに	18
メディアグループ紹介	22
基軸のひとつ「観光事業」	24
十勝毎日新聞社グループの歩み	30
十勝毎日新聞社 会社概要	34



Hiroshi Hayashi

ニュースの質と量を追求 デジタル化推進に全力

ウクライナ危機以降、エネルギー市場の混乱が続いています。北海道・十勝では、資材価格の高騰によって農業現場は厳しい局面を迎えました。経済分野でも、帯広市内の大型店の閉店が相次ぎ、不安材料が残りました。本紙メディアグループは、読者ニーズに応えるべく総力取材で、地域の実情はもちろん専門家の知見など、必要とされる情報を多角的に報じました。報道機関としての重要な役割を改めて認識したところです。2024年中に国立公園の指定を受ける見通しとなった日高山脈襟裳国定公園、大樹町を拠点に進む宇宙ビジネスなど、新たな展開や成長が期待されるテーマについても動向を伝えて参ります。

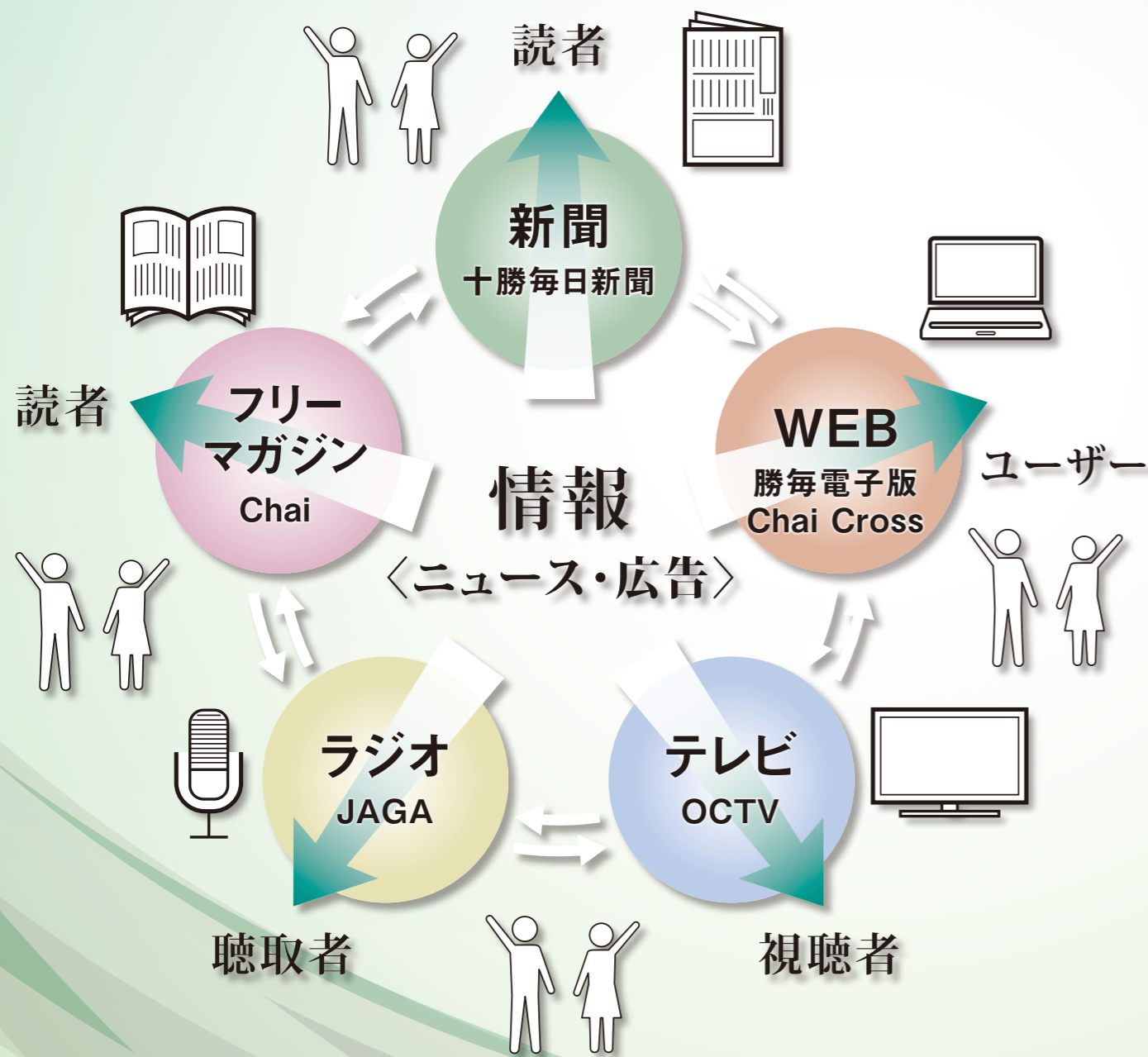
私たちは新聞・電子版に加え、ケーブルテレビ局の帯広シティーケーブル(OCTV)、エフエムおびひろ(JAGA)の複数媒体を有する世界でも珍しいメディアグループです。各媒体の特徴を生かして、十勝の情報を域内はもちろん、国内外に広く伝えていきます。「顔の見える紙面」と「読者本位制」を編集方針に据え、生活に欠かせない「ハイパーローカルな紙面づくり」を徹底しています。「勝毎電子版」の情報も量・質ともに充実してきました。災害速報や動画発信などのネット対応を進め、ニュースの質と量を追求しながら読者の多様なニーズに応じていきます。

観光グループには創業120年余りの歴史を刻む北海道ホテル、創業60年余りの十勝川温泉第一ホテルがあり、希少なモール温泉やフィンランド式サウナ、質の高いおもてなしで地域の魅力発信に努めています。

これからも「郷土の発展とともに」の社是の下、メディアと観光の“二本柱”を基軸に、グループの力を結集して、豊かで潤いがある力強い十勝地域の実現に向けて全力を挙げて、取り組みます。

株式会社十勝毎日新聞社 代表取締役社長 林 浩史

複合メディアで 十勝を活性化



十勝毎日新聞社グループは、新聞を核とするメディアの集合体です。電子版やケーブルテレビ、コミュニティFM、フリーマガジン。異なるメディアが各媒体の特性を生かして、集めた情報をニュースや広告として、十勝内外に発信しています。

各媒体は同じ建物の中に集約されており、効果的なメディア融合を実現しています。国内の地方紙でこれほど多くのメディアを複合展開している例はありません。

十勝毎日新聞社メディアグループの媒体

■ 十勝毎日新聞

発行部数：68,194部、十勝管内普及率：43.40%
※2024年4月ABC協会報告部数

帯広市内占有率：70.39%、十勝管内占有率：68.64%
※十勝毎日新聞の発行部数を、帯広市内および十勝管内6紙の発行部数で割った場合

■ 十勝毎日新聞電子版

有料契約件数：10,746件 ※2024年4月
月間最高PV数：9,758,754PV ※2024年3月

■ フリーマガジンChai

133,500部発行 ※帯広市内、音更・芽室・幕別各町の市街に全戸配布。そのほか町村は十勝毎日新聞購読世帯に配布
※2024年4月

■ 帯広シティーケーブル(OCTV)

加入総世帯数：16,773世帯
テレビ：11,817世帯 ネット：11,788世帯
固定電話：8,114世帯 スマホ：1,296件 ※2024年4月

■ エフエムおびひろ(JAGA)

放送エリア：帯広圏(帯広市、音更町、幕別町、芽室町)と池田町、清水町、中札内村の一部をカバー。
放送エリア内の人口：約25万人(十勝の人口の約70%)

地域密着の情報発信

地方メディアの存在意義は、地域の身近なニュースを伝えること。
徹底した地域密着報道が、十勝毎日新聞の基本姿勢です。

MOVIE



“顔の見える新聞づくり”を徹底



ローカル情報を網羅 十勝の隅々まで取材

政治・経済、農業、スポーツ、事件・事故から町内会の話題まで、総勢50人の記者が、市町村を含めあらゆる所から情報を集め、紙面・電子版に反映しています。“顔の見える新聞づくり”は、創刊以来、変わることのない編集方針です。



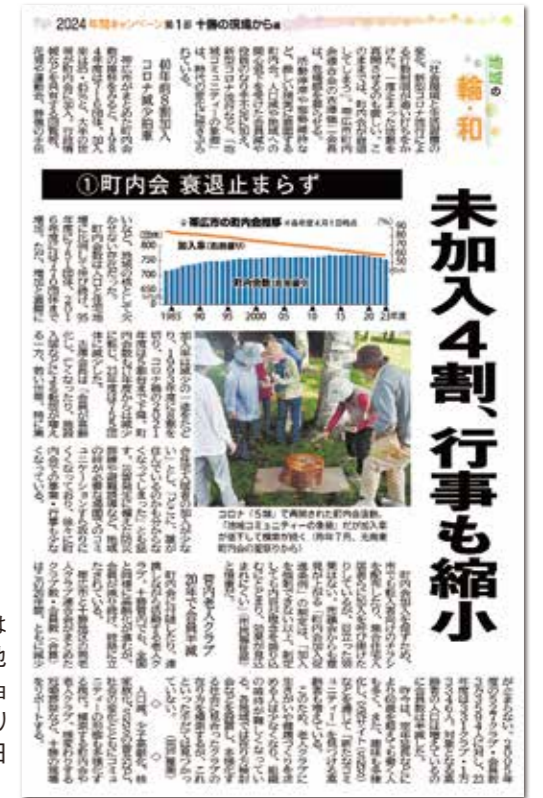
過去のキャンペーン

- 2020年 「宇宙港への道」
- 2021年 「守り継ぐ日高山脈」
- 2022年 「孤のとなりに」
- 2023年 「十勝で暮らす～選ばれるまちに」
- 2024年 「地域の輪・和」

年間キャンペーンで地域を先導

まちづくりへの提言報道も定評があります。1976年の「交通事故をなくそう」以来、長年にわたり年間キャンペーンを展開。テーマは観光、宇宙、福祉など多岐にわたります。時には記者が国内外の取材を行い、現状と課題を多角的に掘り下げます。

2024年のテーマは「地域の輪・和」。地域のコミュニケーションの在り方などを探ります(2024年1月5日付十勝毎日新聞)



最終面に掲載した大型インタビュー記事。ウォール・ストリート・ジャーナル(WSJ)のピーター・ランダース東京支局長に注目ニュースに対する見解などを聞いた(2023年8月10日付十勝毎日新聞)

紙面改革で最終頁を ニュース面に

2023年7月に紙面改革を行いました。テレビ欄を掲載している最終面をニュース面とし、スポーツ、文化や宇宙、防災といった話題を報道。十勝に関係する人を紹介する新設の大型インタビュー記事等を展開しています。

手厚い農業報道で生産者を応援

十勝毎日新聞社は、農業を地域の根幹を支える最重要産業と位置付け、手厚い報道を続けてきました。今後も営農に役立つ最新情報の発信を続け、さらなる成長を後押ししていきます。

十勝農業史

開拓から「王国」への軌跡を収録

十勝の農業の歴史と現在の取り組みを網羅した「十勝農業史」を2023年7月に刊行しました。上・下巻666ページの大ボリュームで、民間による開墾から「農業王国」と呼ばれるまでに発展した十勝の軌跡を収録しています。



農業ガイド

毎週土曜の農業ガイドで深掘り情報

毎週土曜に「農業ガイド」を掲載。勝毎の農業報道の象徴となっています。収穫量に直結する気象、新品種の情報、栽培の注意点など通常紙面よりも専門的で営農に役立つ情報を載せています。



農業新技術

毎年発行 全農家に配布

十勝に拠点を置く農業系研究機関が毎年3月に発表する成果を収録した冊子「農業新技術」を発行。1993年から続く取り組みで、全農家に無料配布しています。

スポーツ振興を後押し 地元選手の活躍を詳報

十勝毎日新聞は創刊以来、地元スポーツの振興・発展に力を注いできました。地方大会はもちろん全国、国際大会にも記者を派遣し、アスリートの活躍を紙面と電子版できめ細かく報道しています。生き生きとしたプレー写真をふんだんに掲載しています。



スポーツ紙に負けないレイアウト

スポーツ紙にも見劣りしないレイアウトが定評の「かちスポ」面は、紙面を組み上げる編集局整理部員が力を入れているポイントの一つです。写真と見出しの配置を工夫してダイナミックなレイアウトを実現しています。

全大会の記録を網羅

十勝管内のスポーツ競技関係者と密接な関係を築き、年間の大会スケジュールに基づいた取材計画を作成。関係者から大会記録の提供を受けて的確に掲載しています。読者参加方式を実現している世界でもまれなメディアです。

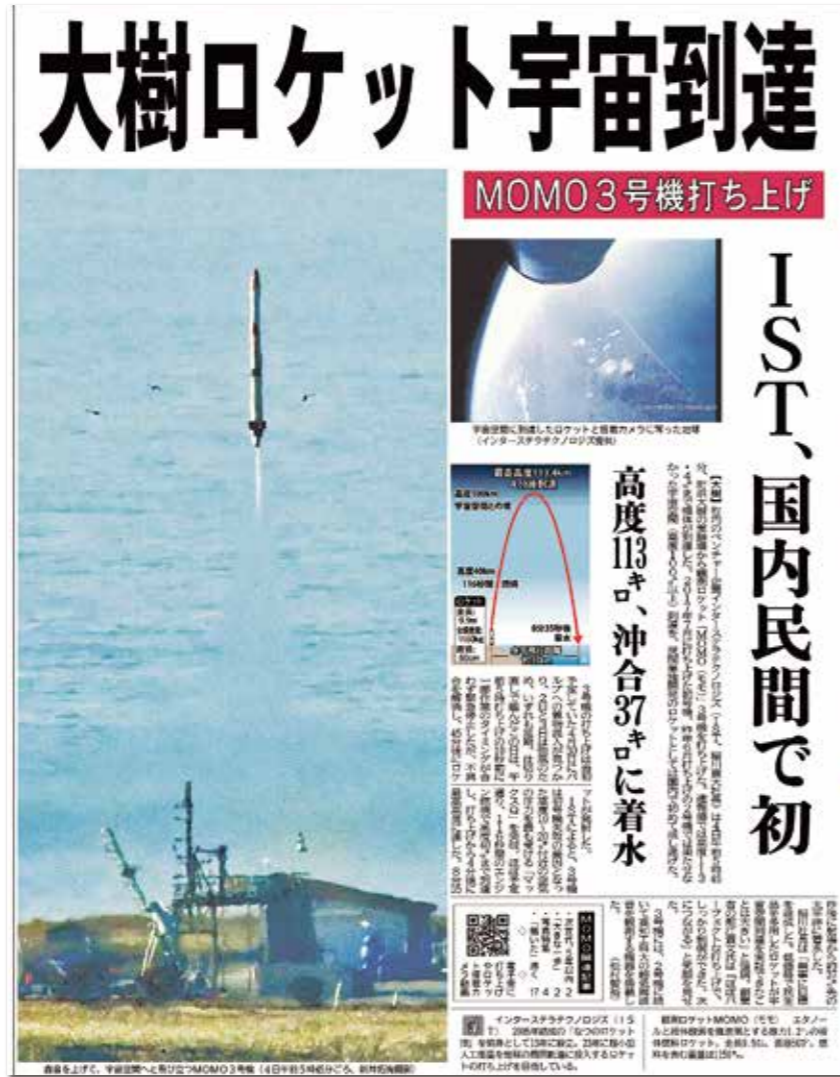
十勝から宇宙へ 報道で全力支援

1985年に北海道・大樹町が宇宙基地誘致をスタート。十勝毎日新聞は1面トップで「大樹町に宇宙基地を」の特ダネを掲載しました。以来、米航空宇宙局(NASA)のレポートやフォーラム開催を通じて基地誘致を支援しています。



日本最大級の宇宙ビジネスカンファレンス「宇宙サミット」は毎回、運営に携わっています

インターステラテクノロジズ(IST)の観測ロケット「MOMO(モモ)」3号機が大樹町から打ち上げられ、民間単独開発では国内初となる宇宙空間への到達に成功しました(2019年5月4日)



「The Final Frontier.2023」 大樹町の歩み紹介

大樹町の宇宙の取り組みをまとめた「The Final Frontier.2023」を発行しました。宇宙関連記事のハイライトを①黎明(れいめい)編(1985～98年)②発展編(2000～14年)③飛翔編(16年～)に分類し、掲載しています。

地域の生活情報 フリーマガジンで

Chai



巻頭はさまざまな切り口で特集を掲載しています。2024年5月号から、デザインと連載をリニューアルしました

十勝No.1の発行部数 毎月約160ページ

「Chai(ちやい)」は十勝No.1の発行部数を誇る月刊フリーマガジンです。平均約160ページのボリュームで、十勝のグルメや観光など暮らしに役立つ情報を掲載しています。

勝毎電子版のコンテンツ「Chaiでじ」では、冊子のダウンロードはもちろん、過去の連載や特集も一挙に確認できます。



動画もup / Chaiでじ



Chaiでじ

巻頭特集のほか、まちの名店や人にスポットを当てた連載、新店情報も人気です。

創刊25周年記念イベントを開催

1998年の創刊から25周年の節目に合わせて2023年8月、帯広市内の商店街と連携して「Chai Cross Street」を開催しました。ビアガーデンやガラポン抽選会などを実施。取材先や日ごろ広告を掲載している飲食店も出店してイベントを盛り上げました。



電子版で 早く深く、情報を

十勝毎日新聞 電子版
Tokachi Mainichi News Web



十勝毎日新聞社は日本の新聞社の中で先駆けて情報のデジタル化をスタートさせました。地域はもちろん、国内・世界に向けて十勝の話題を発信し続けています。

有料会員1万人以上

情報をより早く、深く地域に届けると共に、十勝の話題を国内外に広く伝えて地域を活性化したい。電子版はそんな願いを込めて2010年、開設しました。

毎日のニュースや防災時の速報はもちろん、ビジネスや農業、宇宙など地域産業も深く取材。オリジナルのコンテンツも次々と生み出しています。2023年7月には登録者数1万1,000人を達成しました。



デジタルを支える頭脳

電子版は、社内のデジタル業務を一挙に担う編集局デジタルセンターが運営。システムやコンテンツ開発から顧客の管理まで、日々の進化を支えています。

勝毎電子版 アプリ

電子版アプリは2015年にリリース。プッシュ通知を利用した「速報ニュース&各種お知らせ」機能や、見たいジャンルをタブごとに追加・並び替えできる「カスタマイズ」機能も搭載しています。

POINT 1

**おくやみ速報は午前、
詳細は午後1時半にお届け**

新聞が各家庭に届く夕方に先駆け、午前からおくやみ速報を提供。

POINT 2

**過去35年分の記事を
ワンタッチで検索！**

1989年1月までさかのぼって記事検索ができます。キーワード検索も可。

気象防災速報

大雪や大雨警報などの気象情報、津波や噴火などの防災速報に力を入れています。災害時には写真や動画も交えながら、情報をいち早くユーザーに知らせ、地域の生命と安全を守ります。

「防災情報」のまとめページでは、備えに役立つ情報を掲載。「地震」「大雪」などジャンルごとに記事を見ることができます



充実の独自コンテンツ

交通インフラの要所に
カメラを設置

ライブカメラ

「十勝川白鳥大橋」や「とかち帯広空港」など4カ所にライブカメラを設置。十勝の交通機関の情報や天気予報も合わせて確認でき、災害時にも活用されています。



HOKKAIDO SPACEPORT 大樹航空 宇宙基地構想

大樹町の「宇宙のまちづくり」を応援。十勝毎日新聞の報道記事や関係者へのインタビューもアップ。打ち上げの際には、ライブ映像も配信してきました。

勝毎アグリカルチャー

農業関連記事をまとめています。「農と食」や「農業と教育」など分野ごとに掲載し、特集や連載も集約。オリジナル記事や、人気マンガ連載「十勝ひとりぼっち農園 勝毎出張編」も全作品閲覧できます。



電子版ジャーナル

読者の「もっと知りたい」というリクエストに応え、多彩なジャンルの深掘り記事や特集を掲載しています。記者や地域の人も執筆に加わり、ドローン映像などの動画も配信しています。



THE WALL STREET JOURNAL.

追加料金なしで、米有力経済紙の
オンライン日本版購読可

ウォール・ストリート・ジャーナル(WSJ)は、米国最大の毎日ビジネス紙。十勝毎日新聞電子版では2018年から、WSJと提携、登録無料でオンライン日本版の購読が可能になりました。



広がるデジタル化

十勝の情報交差点

Chai
Cross

チャイクロス



十勝の魅力を伝える新たなメディアとして23年8月に開設。記者の視点による特集記事やグルメ、スイーツ、観光、新店、イベントなど各種情報を発信しています。

カテゴリやタグごとの閲覧も可。一般の執筆者も投稿し、サイトを盛り上げています

とかちの住まい「検索」サイト
すまるnet



十勝・帯広の不動産情報をまとめた、住まいの検索サイト。物件は2,000件以上を紹介しています。



あなたの「働きたい」を叶えます
とかちジブ



とかちの求人情報を掲載し、職種やエリア、雇用形態などの条件別に調べることができます。新聞やWEB、フリーペーパーの3媒体で展開。



Chai
Beauty



フリーマガジンChaiと連動した美と健康の検索サイト。ヘアサロンやネイル、エステ、整体など、十勝の店舗だけを集めて紹介しています。



十勝の医療「検索」サイト
お医者さんnet



十勝の病院・医院を診療科目や地域ごとに検索できるサイトです。救急当番医や年末年始・お盆休診情報などを掲載しています。



多彩なイベントで十勝を豊かに

観光や文化、食、農業関連など幅広い分野でさまざまな事業を展開しています。地域の生活に潤いと活力をもたらすとともに、十勝の魅力を全国に発信しています。

十勝の経済・観光に寄与 勝毎花火大会

全国屈指の花火ショー

夜空を幻想的に彩る十勝の夏の風物詩「勝毎花火大会」は1929(昭和4)年、十勝の産業振興をねらいに、初代社長・林豊洲が創刊10周年の事業として始めました。「北海道で最初の花火大会を帯広で開催し、地域に明るさをもたらしたい」と商工業者に呼び掛けて実現。その思いは今も脈々と受け継がれ、道内最大規模を誇るイベントに成長しています。毎年、開催日の8月13日には全国から多くの人を訪れます。

MOVIE



過去の大会の様子

音楽と光 進化し続ける演出

花火はデジタル制御によって打ち上げを秒単位で調整し、音楽や照明、映像などを交えた迫力あるエンターテインメントショーです。YouTubeでは4Kワイド映像の生中継や、ドローン映像を使った動画配信にも取り組んでいます。2023年は高所作業車を導入し、高低差を利用した迫力のある花火、ゲスト司会者による観客一体型の演出など、過去最大規模の7部構成で会場を盛り上げました。



大会は、勝毎グループはもちろん花火業者や警備関係者、十勝の警察や商工業者などの協力を得ながら1年をかけて準備。多くのスタッフの思いをのせた花火が夜空に打ち上がります



観客の心に刻まれる花火で、会場全体が笑顔と感動に包まれます

十勝管内で主催する 花火大会

- ・まくべつ夏フェスタ花火大会
(7月中旬、幕別町)
- ・ふるさと銀河線
りくべつ鉄道まつり花火大会
(7月下旬、陸別町)
- ・十勝港海上花火大会
(8月上旬、広尾町)
- ・足寄ふるさと盆踊り両国花火大会
(8月中旬、足寄町)
- ・おびひろ氷まつり花火大会
(1月下旬～2月上旬、帯広市)

十勝の小豆や小麦をPR



自慢のあんばんを販売

十勝が全国一の収量を誇る小豆や小麦を主原料とする「あんばん」を通じて、十勝の農業・産業振興につなげようと、2021年に初めて開催しました。23年は十勝管内外の22店・団体が出店し、自慢のあんばんを販売。地元の高校生が考案した商品も並び、多くの来場者でにぎわいました。



上／お目当ての一品を買い求める来場者。販売開始1時間ほどで完売する店も
下／ちびっこ小豆箸つかみ選手権などステージイベントも盛り上がりました

美術展で芸術・文化の振興を

優れた作品を十勝に

豊かな地域を創造するため、文化の振興にも力を注いできました。中でも文化発信拠点である帯広美術館は誘致活動を先導し、1991年の開館前から今日まで、数々の美術展を成功させました。デジタルアートや地域の歴史に迫る企画など、主催展だけでも25回を数えます。



2022年には、十勝が舞台の人気漫画「銀の匙 Silver Spoon」を題材とした展覧会を開催 ©荒川弘／小学館

最近の主な美術展

- ・「銀の匙 Silver Spoon展」(2022年)
- ・「蜷川実花展—虚構と現実の間に—」(2020年)
- ・「チームラボ☆ 学ぶ! 未来の遊園地と、花と共に生きる動物達」(2019年)
※十勝毎日新聞創刊100年記念事業
- ・「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」(2018、19年)
- ・追悼特別展「高倉健」(2017年)
- ・「篠山紀信展 写真力」(2016年)
- ・「トーベ・ヤンソン展」(2014、15年)

輝け! 十勝で暮らす女性の人生



会員制女性クラブ

十勝の女性を対象に2009年に発足したのが、女性限定の会員制クラブ「SALA(サラ)」です。地域のパワーの源である「女性」の人生をより豊かにするきっかけをつくろうと、著名人を招いた会員限定の講演会を主軸に活動しています。これまで、ミニ講座や見学ツアーなども実施しました。



軽快なトークで会場を楽しませた草笛光子さんの講演会

最近の主な講師

- 2023年度: 中村正人(DREAMS COME TRUE)さん、山田邦子さん、アンミカさん、桜木紫乃さん
- 2019年度: 草刈正雄さん、安住紳一郎さん、草笛光子さん
- 2018年度: コシノジュンコさん、林真理子さんと中園ミホさん、倍賞千恵子さん



NPO十勝文化会議

十勝の文化発展を願い、1982年に設立されました。芸術や文化を愛する会員約200人が集い、写真や美術、文芸、郷土史、書道など13部会に分かれて活動に取り組んでいます。とかち文化まつりや写真公募展などを行っています。

牛乳普及事業

牛乳の消費拡大をねらいに、牛乳を使った料理教室や子どもたちの酪農体験、流通キャンペーンなどを企画・実施。乳業メーカーや団体とも連携し、「酪農王国・十勝」をPRしています。



十勝和牛プロジェクト

「十勝和牛」の知名度を高め、地域を代表する農畜産物にしようと2013年に発足しました。地元産和牛を焼き肉で味わう「和牛感謝祭」や飲食店による消費拡大キャンペーンなどを通じ、ブランド化と産地形成を応援しています。

帯広シティーケーブル **OCTV**

〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 TEL 0155-23-1511 <https://www.octv.jp>
取締役社長／松浦俊光



十勝の話題、きめ細やかに放送



“世界で一番十勝を放送”しているテレビ局です。1985年の開局以来、地域密着でグルメやレジャー、学校行事、スポーツ大会など、十勝のことを幅広く取り上げてきました。また、インターネットやスマートフォンなど通信インフラを活用し、「地域の暮らしを豊かにする」お手伝いもしています。自治体や警察署と連携協定を結び、災害情報の発信や防犯への取り組みも進めています。

エフエムおびひろ **JAGA**

〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 TEL 0155-23-0778 <https://www.jaga.fm/>
代表取締役社長／伊東肇



高支持で地域に浸透 全国へ発信

1994年に開局したコミュニティFM局。十勝で支持率ナンバーワンを誇るラジオ局です。スマートフォンアプリを使ったネット放送、ポッドキャストでの配信のほか、YouTubeLIVEの動画配信などを活用。災害時の緊急放送やAIアナウンスによる地震速報、緊急気象情報の発信など防災面にも力を入れています。



かちまい印刷

〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 TEL 0155-23-5538
代表取締役社長／林浩史



デジタル印刷 多様な受注に対応

タワー型高速輪転機と高い技術力を持ち、十勝毎日新聞本紙のみならず、読売新聞の印刷を受託。紙面品質審査で高い評価を得ています。新聞印刷のほかに、デジタル印刷の最新鋭機を導入し、リーフレットや小冊子など多様な印刷物を引き受けています。

かちまいサービス

〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 TEL 0155-24-2221 <https://kachimai-service.jp/>
代表取締役社長／林浩史



地域に寄り添う サービスを展開

新聞販売店の運営をはじめ、チラシの折り込みや、全戸配布「ぴぴっと便」でクライアントの販促活動をサポートしています。支払い方法の切り替えや古紙回収のほか、ポストに新聞が残っているなどの異常を確認した際、訪問や電話で安否確認を行う「ぴぴっと見守り隊」など読者に近い立場だからこそ安心して任せられるサービスを展開しています。



基軸のひとつ「観光事業」

地域振興を目指して、「メディア」とともに「観光」事業にも積極的に取り組んでいます。

森のスパリゾート
北海道ホテル

〒080-8511 帯広市西7条南19丁目1

TEL 0155-21-0001

代表取締役相談役／林光繁 代表取締役会長／林浩史 取締役社長／林克彦 HP▶



北海道の素材をふんだんに使ったホテルのロビーでは、スタッフが笑顔で迎えてくれます

「北海道」を代表するホテルに

コンセプトは、「北海道の風土」です。十勝から「北海道」を代表するホテルをつくり出し、国内外に郷土の素晴らしさを伝えたい。そんな願いを込めて1994年、「北海道ホテル」と名付けました。前身の「北海館」（1899年創業）から数えて、125年。郷土への誇りを持った高いホスピタリティーで、来館者を迎えています。



館の随所に北海道の素材

外壁にはアイヌの伝統模様を描き、外壁・内装のレンガは十勝の粘土が素材です。北海道遺産に指定されているモール温泉付きの客室や、北海道の背骨・日高山脈を一望できる部屋も。館の随所に北海道への思いがあふれます。



ぜいたくな空間でゆったりとくつろげる露天風呂付き「フォレストスパツイン」

「食」で地域の魅力を発信

十勝・北海道の旬を取り入れた料理で、地域の魅力を発信しています。テラスレストラン「バード・ウォッチ・カフェ」や和食「六郎」、鉄板焼きの「EZO TEPPAN W6」、蝦夷天ぷら「鶴来」といった多彩な食事処が自慢。道内屈指の和・洋シェフとサービスストップのソムリエのもてなしとともに、至福のときを過ごせます。コーヒーにもこだわり、1階のラウンジでは十勝の自家焙煎店と連携した質の高いコーヒーを提供しています。



左／首都圏の大型ホテルと肩を並べる7人のソムリエが常駐。ワインや食の魅力を伝えています
右／ホテルのスイーツとのマリアージュを楽しめるコーヒー

サウナブーム 日本の火付け役

2019年には、十勝で初めて本場フィンランド式のサウナを取り入れました。壁には十勝産シラカバを施し、サウナストーンには環境を浄化する機能のある十勝の麦飯(ばくはん)石を採用。美肌の湯・モール温泉の蒸気で「ロウリュ」する“十勝らしさ”で、サウナ愛好家を中心とした新たな観光客の掘り起こしに貢献しています。



壁に配したシラカバ木の香りが心地よいサウナ

十勝川温泉 第一ホテル
豊洲亭・豆陽亭

〒080-0263 音更町十勝川温泉南12丁目
TEL 0155-46-2231
代表取締役会長／林浩史 代表取締役社長／杉本浩章



モール温泉と十勝の食
五感を満たす極上の時間

十勝リゾート「豆陽亭」と、日本のお宿「豊洲亭」の二つのテイストを併せ持つ旅館です。

温泉は、美人の湯として名高い太古の恵み「モール温泉」。その琥珀色の湯は天然の化粧水ともいわれています。

食事は、「レストラン木もれび」の十勝ビュッフェや、シェフが目の前で焼き上げる「鉄板焼樹氷」など多彩です。近畿日本ツーリストのメールマガジン特集「お食事評価4.5以上の宿」(2021年)では、十勝ビュッフェを中心に高い評価を得て、全国1874の宿泊施設の中から1位に選ばれました。



宿泊や調理担当の各部門スタッフ。より喜ばれるおもてなしを目指してお客様をお迎えしています

足湯テラス「はるにれ」。多彩な温泉に加え、23年12月にはオートロウリュサウナがオープン



エージェントから最高評価をもらったビュッフェレストラン「木もれび」

十勝川温泉 三余庵

〒080-0263 音更町十勝川温泉南13丁目
TEL 0155-32-6211



「三余」を楽しむ
最上のもてなし

「三余庵」の由来は、十勝・帯広の開拓に力を尽くした依田勉三の師・土屋三余の名前です。土屋三余の教えの中に、「書を読むときは『三余』をもってすべし、冬は『歳』の余り、夜は『日』の余り、雨は『時』の余り」という中国故事があります。

心のゆとりとも言える「三余」のような、くつろげる時間と空間を感じてほしい。そんな思いを込めて、最上のもてなしを提供しています。メインダイニング「春秋」では北海道・十勝の食材を中心に、季節感を大切に創作和食懐石を用意しています。



秋田檜を使った檜風呂



露天風呂付き客室

素材を生み出した生産者の心意気を伝える旬の料理を提供しています



十勝千年の森

〒089-0356 清水町羽帯南10線
TEL 0156-63-3000
代表取締役社長／林浩史



初夏のアース・ガーデン(6月)

千年後の未来に残す、「世界一美しい庭」

十勝千年の森は、十勝毎日新聞社の森造りによる環境貢献活動「カーボン・オフセット(炭素の相殺)」を原点に、人と自然が触れ合える森として開設されました。「北海道ガーデン」をテーマに、四つの庭から北国の新たな庭園文化を世界に発信しています。

ガーデンデザイナーのダン・ピアソンが設計した「アース・ガーデン」「メドウ・ガーデン」はイギリスのガーデンデザイナーズ協会のSGDAward2012でグランド・アワード(大賞)とインターナショナル・アワード(国際賞)を受賞。審査員から高い評価を得ました。



表情豊かで独創的な庭は、妥協を許さぬ管理と技術で、世界基準を維持。少数精鋭のガーデナーたちの手で育まれています

キサラファーム

〒089-0356 清水町羽帯南10線
TEL 0156-63-3800
代表取締役／齊藤真



ヤギの乳を使ったチーズを製造

ファーム内で放牧しているヤギの乳を使ったシェブルチーズを製造・販売しています。看板商品「十勝シェブル炭」は、2019年の「ALL JAPAN ナチュラルチーズコンテスト」のシェブル部門でトップの金賞。世界チーズ業界で最高峰の一つとなる「ワールドチーズアワード2021」でも銅賞を受賞しています。



日高山脈の麓に広がる広大な土地でヤギを飼育。季節による乳の変化を見極め、味や形、色にもこだわったチーズづくりを目指しています

十勝トテッポ工房

〒080-0016 帯広市西6条南17丁目3-1
TEL 0155-21-0101
代表取締役／林浩史 取締役社長／林克彦



トテッポ工房で人気の生菓子や焼き菓子。ひと口サイズの〈ナチュラルチーズケーキ〉(手前中央)は手土産としても人気です

北海道・十勝の魅力菓子に込めて発信

「とてっぽ」はかつて、帯広と川西地区・芽室町農村部とを結んでいた私鉄「十勝鉄道」の愛称です。砂糖の原料であるビートを運び、人々の足としても親しまれていました。店がたたずむのは、その鉄道跡地である「とてっぽ通」沿いです。かつて甘いビートと人々の笑顔運んだように、菓子とともに十勝の魅力を運びたいと願い、2010年にオープンしました。

十勝産のチーズ数種類をブレンドした看板商品〈ナチュラルチーズケーキ〉をはじめ、地域の素材にこだわったケーキや焼き菓子を販売しています。2022年には、店舗から続くカフェもできました。



線路を走る食堂車をイメージしたカフェ

エグゼクティブシェフ
今 稔郁(としふみ)

創業時から工房で菓子を作っています。農業や酪農が基幹産業の十勝は、食材の宝庫です。素材の魅力を引き出したおいしい菓子で、これからも笑顔と幸せをお届けします。



【豊洲時代～戦前】

- 1909(明治42)年
 - ・林茂(豊洲)が大分県から帯広に移住
- 1914(大正3)年
 - ・菅野光民が経営する「十勝日日新聞」に茂が入社
- 1918(大正7)年
 - ・光民がトムラウシで熊に襲われ死去
- 1919(大正8)年
 - ・茂が帯広新聞社を設立
 - ・旬刊「帯広新聞」を創刊
- 1920(大正9)年
 - ・十勝毎日新聞と改称、日刊に
 - ・本社印刷工場完成 4ページで発行
- 1923(大正12)年
 - ・創立5周年、本紙1000号
- 1925(大正14)年
 - ・第1回帯広野球大会
 - ・全十勝野球大会
- 1927(昭和2)年
 - ・勝毎が呼びかけ、狩勝峠が「新日本八景」に
- 1929(昭和4)年
 - ・第1回納涼花火大会(現勝毎花火大会)
- 1930(昭和5)年
 - ・「十勝小唄」を作詞発表
- 1934(昭和9)年
 - ・豊洲が運動した然別、糠平を含めて大雪山エリアが国立公園に
- 1935(昭和10)年
 - ・豊洲死去、林克己が2代目社長に就任
- 1936(昭和11)年
 - ・昭和天皇帯広行幸、天覧新聞に指定
- 1939(昭和14)年
 - ・戦時統制で旧北海タイムスと合併
- 1942(昭和17)年
 - ・道内11紙の統合による「北海道新聞」が創刊

【戦後】

- 1946(昭和21)年
 - ・復刊の前提として「週刊十勝毎日新聞」発行。タブロイド判
- 1947(昭和22)年
 - ・「週刊十勝毎日新聞」第40号で休刊
- 1952(昭和27)年
 - ・日刊「十勝毎日新聞」復刊
- 1956(昭和31)年
 - ・十勝川温泉第一ホテルの前身、大衆温泉「十勝川温泉クラブ」開業
- 1961(昭和36)年
 - ・「十勝川温泉クラブ」を第一ホテルと改称
 - ・輪転機印刷設備完成(マリノニー式色刷・自動折り畳み付き)
- 1962(昭和37)年
 - ・札幌支局設置
- 1964(昭和39)年
 - ・広尾支局を開設
- 1968(昭和43)年
 - ・創刊50年を迎え、新聞の題字書き換え
- 1969(昭和44)年
 - ・新社屋完成

十勝毎日新聞社グループの歩み(1)

メディア、観光 “二本柱” で成長

十勝毎日新聞は「郷土の発展とともに」の社是の下、1919年9月に創刊し、今では十勝管内で最大シェアの夕刊紙となっています。

歴史をひもとくと、初代社長の林豊洲(本名・茂)が帯広市西2南8に帯広新聞社を設立したのが始まりです。1920年4月に現在の「十勝毎日新聞」に改称しました。

十勝の情報をきめ細かく報道するハイパーローカルな紙面づくりと、ケーブルテレビやコミュニティFM、フリーマガジンといった自社媒体との連動に加え、ホテル、飲食、菓子店、ガーデンの経営にも力を入れ、メディアと観光を両輪とした事業を展開しています。



1931(昭和6)年に豊洲が建設した3階建ての社屋。第2次世界大戦中の新聞の統合で一時的に手放すが、1957(昭和32)年に買い戻し、1968(昭和43)年まで使われた



1919(大正8)年の創刊から使われ続けてきた鉛の活字。コンピューターによる印刷組版システムの導入により次第に姿を消した

歴代社長



初代 林 豊洲
[1919年9月～]



2代 林 克己
[1935年12月～]



3代 林 正巳
[1991年1月～]



4代 林 光繁
[1992年12月～]



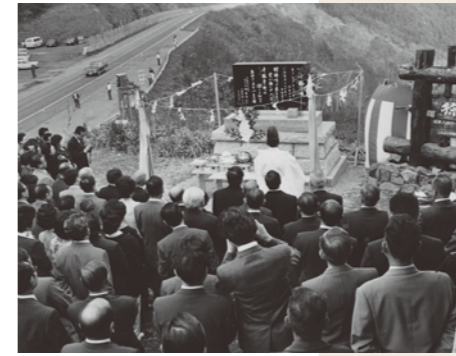
5代 林 浩史
[2009年12月～]



「グリーンピア'82十勝博」の様子



1985(昭和60)年、帯広シティーケーブルの開局



1976(昭和51)年、狩勝峠頂上の見晴らし台に立てられた十勝小唄の碑



1978(昭和53)年、故中川一郎農林水産大臣(左)と故太田寛一全農会長の対談。十勝出身の日本農業のトップリーダー同士が将来を見据えて議論を交わした



恐竜模型を展示した「みどりいむ'92」

- 1970(昭和45)年
 - ・新得支局開設
- 1972(昭和47)年
 - ・発行部数2万部を突破
- 1976(昭和51)年
 - ・「交通事故をなくそう」をテーマに第1回年間キャンペーンがスタート
 - ・輪転機(オフセット)導入に伴う新工場拡張増設
 - ・株式会社として登記
 - ・初代社長林豊洲作詞「十勝小唄」の保存会発足により、小唄発祥の地狩勝峠頂上の見晴らし台に碑を建立、除幕式挙
- 1978(昭和53)年
 - ・「日本農業大いに語る中川一郎 農林水産大臣、太田寛一全農会長 ビッグ対談」企画掲載
- 1979(昭和54)年
 - ・創刊60周年記念「札幌コンサート」開催
- 1981(昭和56)年
 - ・株式会社帯広有線テレビ設立
- 1982(昭和57)年
 - ・ふじまるビル7階に「勝毎サロン」開設
 - ・かちまいホームセンターオープン
 - ・十勝文化会議設立
 - ・帯広市開基100年を記念して「グリーンピア'82十勝博」を開催
- 1983(昭和58)年
 - ・発行部数5万部達成
- 1984(昭和59)年
 - ・読みやすい「K」字を開発、使用開始
- 1985(昭和60)年
 - ・帯広有線テレビを株式会社帯広シティーケーブルに社名変更
 - ・帯広シティーケーブル(OCTV)都市型CATV全国トップで開局
- 1986(昭和61)年
 - ・発行部数6万部達成
- 1990(平成2)年
 - ・「十勝新聞教育研究会」発足、十勝のNIE運動が本格スタート
 - ・カーボン・オフセットの理念に基づき、清水町内に植林用地を確保。森林造成による環境改善活動に取り組む
- 1991(平成3)年
 - ・林正巳3代目社長に就任
 - ・紙齢2万号到達
 - ・「ホテル北海館」を買収、グループのシティーホテルとして経営
- 1992(平成4)年
 - ・グループ企業第一ホテルの新館「豊洲亭」ランドオープン
 - ・林光繁4代目社長就任
 - ・帯広市、帯広商工会議所と共催で「みどりいむ'92」(十勝・緑の地球博)開催
 - ・「新K字」の使用開始、1段12字79行制を採用(従来は13字87行)
- 1993(平成5)年
 - ・北米支局をアメリカ・オハイオ州クリーブランド市に開設。支局長に林浩史取締役が就任

- 1994(平成6)年
 - ・清水町羽帯で十勝千年の森計画を開始
 - ・コミュニティー放送局「株式会社エフエムおびひろ」をグループ会社として設立
 - ・グループのホテル北海館が「北海道ホテル」に改称
 - ・「エフエムおびひろ(JAGA)」開局(12月24日)
- 1995(平成7)年
 - ・発行部数8万部達成
 - ・全国に先駆けて記事の原則署名化を実施
 - ・十勝毎日新聞社グループ地ビール会社「十勝ビール株式会社」を設立
 - ・北海道ホテルがグランドオープン
- 1996(平成8)年
 - ・函館市の株式会社テーオー小笠原との共同出資で「株式会社函館新聞社」設立
 - ・新聞の編集、制作を全画面にコンピュータ化する電子編集システム(新CTS)導入
- 1997(平成9)年
 - ・函館新聞社が夕刊紙「函館新聞」発行(1月1日)
- 1998(平成10)年
 - ・十勝初のフリーペーパー情報誌「Chai」創刊
 - ・タブロイド判20ページ、フルカラーで10万部を発行
- 1999(平成11)年
 - ・東京機械製作所の超高速オフセット輪転印刷機「タワー型カラトップCT6000」を導入
 - ・読売新聞の受託印刷開始
- 2000(平成12)年
 - ・創刊80周年記念で公募した本社イメージキャラクターの愛称が「びびっと」に決定
 - ・読売新聞社と災害時相互援助協定を締結
- 2001(平成13)年
 - ・文字を大型化。1段11字組みに
 - ・発行部数9万部達成
- 2002(平成14)年
 - ・「とち国際現代アート展・デメーター」開催
- 2004(平成16)年
 - ・十勝川温泉第一ホテルに「三余庵」オープン
- 2005(平成17)年
 - ・欧州以外で初開催のナチュラルチーズ国際交流会議「コミテ・プレニエ・フロマージュ」開催
- 2006(平成18)年
 - ・東京・銀座に「十勝屋」開業
 - ・新印刷工場増設工事完了
- 2007(平成19)年
 - ・十勝川温泉第一ホテルが創業50周年記念式典、本館を「豆陽亭」としてリニューアルオープン
 - ・十勝川温泉第一ホテル別館の「三余庵」が小規模旅館としてJTBが北海道初の「サービス最優秀旅館ホテル」に選出
- 2008(平成20)年
 - ・十勝千年の森がグランドオープン
 - ・フリーペーパー情報誌「Chai」を月刊マガジン化
- 2009(平成21)年
 - ・女性の会員制クラブ「SALA」スタート
 - ・現社長 林浩史5代目社長就任
 - ・Chaiマガジン「まんぷく十勝2009～10」発行

十勝毎日新聞社グループの歩み〈2〉

多角化進め地域一のメディアに



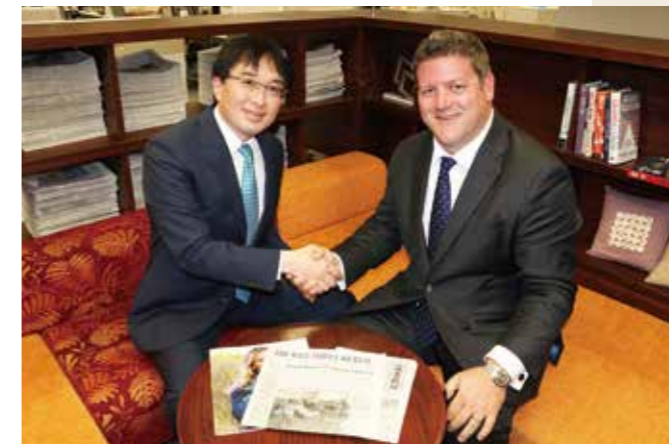
1994(平成6)年に「エフエムおびひろ」を設立。「十勝発の情報を、十勝のラジオで流す」という熱意のもと、勝毎ビル4階にスタジオを設けた



2012(平成24)年に英国ガーデンデザイナーズ協会(SGD)の大賞を受賞した十勝千年の森。写真は自生植物からヒントを得たメドウ・ガーデン



2016(平成28)年に開催した特別展「篠山紀信展 写真力」。2万5000人以上の来場者数を記録した



2018(平成30)年、ウォール・ストリート・ジャーナルと提携。WSJグローバル・マネージング・ディレクターのジョナサン・ライト氏(右)と握手する林浩史社長



2018(平成30)年に導入した、新編集システムの稼働式後の記念写真。より美しい画像の紙面に



創刊100年記念式典(北海道ホテル大雪の間)で式辞を述べる林社長

- 2010(平成22)年
 - ・十勝毎日新聞電子版サービス開始
 - ・洋菓子屋「十勝トッポ工房」オープン
- 2012(平成24)年
 - ・北海道ガーデンショー開催
 - ・ダイニングレストラン「十勝農園」オープン
 - ・十勝千年の森のアース・ガーデン、メドウ・ガーデンがSGD大賞受賞
- 2013(平成25)年
 - ・国内著名識者のコラム欄「耕土興論」を新設
- 2014(平成26)年
 - ・札幌医科大学と包括連携協定を締結
- 2016(平成28)年
 - ・家庭の作業代行サービス「びびっとお手伝いサービス」を開始
 - ・帯広畜産大学と包括連携協定を締結
- 2017(平成29)年
 - ・ISTのロケット打ち上げでパブリック・ビューイング開催
 - ・ハウスクリーニング事業「かちまいライフサポート」開始
 - ・十勝千年の森が土木学会景観・デザイン委員会主催の「土木学会デザイン賞2017」で最優秀賞
- 2018(平成30)年
 - ・十勝千年の森が国際ランドスケープアーキテクト連盟(IFLA)が主催する2018年AAPME(アフリカ・アジア太平洋・中東地区大会)で最高位の「Outstanding Award」を受賞
 - ・かちまい印刷と北海道新聞社・子会社の道新総合印刷が災害協定締結
 - ・十勝毎日新聞電子版で「ウォール・ストリートジャーナル(WSJ)」オンラインが購読できるサービス開始。本紙の国内・国際面にもWSJの記事欄を設置
 - ・多メディア配信を可能とする新システム(CMS)導入
- 2019(令和元年)年
 - ・紙船3万号到達
 - ・デジタルアート展「チームラボ☆学ぶ!未来の遊園地と、花と共に生きる動物達」を開催し、帯広美術館入場者最高記録・8万9065人が来場
 - ・創刊100年記念式典を帯広、札幌、東京で開催
- 2020(令和2)年
 - ・十勝毎日新聞電子版アプリをリニューアル
 - ・北海道放送(HBC)と連携協定を締結
- 2021(令和3)年
 - ・十勝ロイヤルマンガリツァ豚を提供する「29Curl(にくカール)」開業
 - ・十勝トッポ工房第2工場稼働
- 2022(令和4)年
 - ・十勝トッポ工房カフェオープン
 - ・勝毎電子版の有料会員が1万人に
- 2023(令和5)年
 - ・情報サイト「Chai Cross」開設

■ 十勝毎日新聞社 会社概要

<https://www.tokachi.co.jp>

創立/1919年9月 資本金/3,000万円
 売上高/32億83百万円(2023年9月期実績)
 発行部数/夕刊単独 68,194部(2024年4月 ABC部数)
 代表取締役社長/林 浩史 顧問/林 光繁
 取締役/林 克彦 取締役/伊東 肇 取締役/杉本 浩章
 常務執行役員総務局長兼グループ統括/米澤 忠祥
 執行役員編集局長兼統合編集本部長/高久 佳也
 執行役員営業局長/原口 暁史
 執行役員営業担当/丸山 芳明
 執行役員営業局統括本部長/竹内 徹
 執行役員札幌支社長/河尻 有功
 執行役員札幌支社編集委員/道下 恵次
 執行役員東京支社長/齊藤 雅彦
 販売局長兼かちまいサービス統括本部長/橋枝 和宏
 社長室長/牛島 里規
 監査役/中井 宏、竹川 博之

【本社】〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2番地 (代表) TEL 0155-22-2121 FAX 0155-25-2700 <https://www.tokachi.co.jp>

【編集局】	報道センター/デジタルセンター/編成センター	TEL 0155-22-2121 FAX 0155-25-2700
【営業局】	営業部/制作部/管理部	TEL 0155-23-2323 FAX 0155-24-9190
	事業部	TEL 0155-22-7555 FAX 0155-22-1077
【販売局】	販売部/販売センター	TEL 0155-24-2222 FAX 0155-21-7755
	かちまいお客様センター	TEL 0120-25-3999 (フリーダイヤル)
【制作局】	かちまい印刷内	TEL 0155-23-5538
【総務局】	人事部/経理・財務部/管理部	TEL 0155-24-2299 FAX 0155-24-2600
【社長室】	社長室/十勝千年の森観光部	TEL 0155-22-2121 FAX 0155-21-2247

【札幌支社】	〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目34 フージャース札幌ビル2階	TEL 011-261-2161 FAX 011-222-2224
【東京支社】	〒104-0061 東京都中央区銀座7丁目14-4 TAKI 銀座ビル2階	TEL 03-3544-1365 FAX 03-3544-1366
【音更支局】	〒080-0301 音更町木野大通西10丁目2-12	TEL 0155-67-6201 FAX 0155-67-6203
【本別支局】	〒089-3334 本別町北4丁目1-15	TEL 0156-22-2618 FAX 0156-22-4657
【広尾支局】	〒089-2623 広尾町並木通西1丁目1	TEL 01558-2-4111 FAX 01558-2-5895
【池田支局】	〒083-0090 池田町大通1丁目32	TEL 015-572-2367 FAX 015-572-3559
【新得支局】	〒081-0012 新得町2条南3丁目	TEL 0156-64-5524 FAX 0156-64-4110
【かちまいホームセンター事務局】	十勝毎日新聞社営業局内	TEL 0155-22-7555 FAX 0155-22-1077

【関連企業】 函館新聞社 〒041-8540 函館市港町1丁目17番8号 TEL 0138-43-2121 FAX 0138-43-3131



本社社屋

十勝毎日新聞社グループ企業 Tokachi Mainichi Newspaper, Inc. Group

[メディアグループ Media Group]

- かちまい印刷
〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル TEL 0155-23-5538 FAX 0155-23-5548
- かちまいサービス
〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル1F TEL 0155-24-2221 FAX 0155-21-4400 <https://kachimai-service.jp>
- 帯広シティーケーブル (OCTV)
〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル4F TEL 0155-23-1511 FAX 0155-23-5507 <https://www.octv.jp>
- エフエムおびひろ (JAGA)
〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル4F TEL 0155-23-0778 FAX 0155-23-7780 <https://www.jaga.fm>

[観光グループ Tourism Group]

- 北海道ホテル
〒080-8511 帯広市西7条南19丁目1 TEL 0155-21-0001 FAX 0155-21-0002 <https://www.hokkaidohotel.co.jp>
- 十勝川温泉 第一ホテル/豊洲亭・豆陽亭
〒080-0263 音更町十勝川温泉南12丁目 TEL 0155-46-2231 FAX 0155-46-2238 <https://www.daiichihotel.com>
- 十勝川温泉 三余庵
〒080-0263 音更町十勝川温泉南13丁目 TEL 0155-32-6211 FAX 0155-32-6212 <https://www.sanyoan.com>
- 十勝千年の森
〒089-0356 清水町羽帯南10線 TEL 0156-63-3000 FAX 0156-63-3031 <https://www.tmf.jp>
- キサラファーム
〒089-0356 清水町羽帯南10線 TEL 0156-63-3800 FAX 0156-63-3031 <http://www.tmf.jp>
- 十勝トテッポ工房
〒080-0016 帯広市西6条南17丁目3-1 TEL 0155-21-0101 FAX 0155-24-0707 <https://www.totteppo-factory.com>

[十勝毎日新聞販売店一覧]

■ 帯広地区



- 【帯広市】
- ① 緑ヶ丘
 - ② 緑西
 - ③ センターゲート
 - ④ 東部南
 - ⑤ ノースゲート
 - ⑥ 栄
 - ⑦ フォレスト
 - ⑧ 南町東
 - ⑨ 自由が丘
 - ⑩ 西帯広
 - ⑪ サウスゲート

■ 十勝管内



- 【帯広市】
- ⑫ 清川
- ⑬ 大正
- 【音更町】
- ⑭ 木野
- ⑮ 木野東
- ⑯ 音更
- ⑰ 駒場
- 【幕別町】
- ⑱ 札内
- ⑲ 幕別
- ⑳ 糠内
- ㉑ 忠類
- 【芽室町】
- ㉒ 芽室
- 【清水町】
- ㉓ 御影
- ㉔ 清水
- 【新得町】
- ㉕ 屈足
- ㉖ 新得
- 【鹿追町】
- ㉗ 鹿追
- ㉘ 瓜幕
- 【土幌町】
- ㉙ 土幌
- 【上士幌町】
- ㉚ 上士幌
- 【池田町】
- ㉛ 池田
- 【豊頃町】
- ㉜ 茂岩
- 【浦幌町】
- ㉝ 新吉野
- ㉞ 浦幌
- 【本別町】
- ㉟ 厚内
- ㊱ 勇足
- ㊲ 本別
- 【足寄町】
- ㊳ 足寄
- 【陸別町】
- ㊴ 陸別
- 【中札内村】
- ㊵ 中札内
- 【更別町】
- ㊶ 更別
- 【大樹町】
- ㊷ 大樹
- 【広尾町】
- ㊸ 豊似
- ㊹ 広尾

十勝毎日新聞社採用HPは「挑戦」をテーマとし、2023年に全面リニューアル。社員座談会など動画コンテンツもご覧ください。

